

新たな文化施設に関するヒアリング結果報告書

長崎市文化観光部文化振興課

【目的】

新たな文化施設の整備にあたり、ホール利用者及びホールの専門的な立場の方から意見を聴取し、ホール機能の検討を行う際の参考とする。

【期間】

平成29年7月18日から平成30年3月23日まで

【方法】

ホールに求められる機能などについて設問を設定し、事前に配布した上で、口頭によりヒアリングを実施。長崎市芸術アドバイザーからは、設問にとらわれず、総合的かつ専門的な意見をいただいた。

【対象者】

「利用者の視点」、「舞台装置に関する専門的な視点」、「芸術文化に関する総合的かつ専門的な識見に基づく視点」の3つの視点から、文化団体（実演・鑑賞）・興行主催者・学識経験者、舞台技術者、芸術アドバイザーなど40の団体・個人から意見聴取。

● 利用者の視点（31団体）

・文化団体（22団体）

音楽分野（14団体）：総括団体1・オーケストラ5・吹奏楽5・オペラ1・合唱1・
ハンドベル1

演劇分野（3団体）：総括団体1・鑑賞団体2

舞踊分野（3団体）：総括団体（洋舞）1・邦舞団体2

伝統芸能分野（2団体）：能楽1・音楽1

・興行主催者（7団体）：テレビ局4・ラジオ局1・新聞社1・企画会社1

・学識経験者（2人）：大学教授2

● 舞台装置に関する専門的な視点

・舞台技術者（7団体）：市ホール指定管理者3・元市ホール指定管理者2・その他2

● 芸術文化に関する総合的かつ専門的な識見に基づく視点

・長崎市芸術アドバイザー（2人）：一般財団法人地域創造プロデューサー2

目次

1 ホール諸室に求められる機能について

(1) メインホールについて

ア 舞台機能について

(ア) 舞台形式について P 4

(イ) 舞台の大きさ P 5

(ウ) 吊物設備 P 6

(エ) その他必要な機能 P 7

イ 音響設備について P 7

ウ 照明設備について P 7

エ 映像設備について P 8

オ その他 P 8

カ 搬入口について

(ア) 位置 P 8

(イ) 導線 P 9

(ウ) 駐車可能な車両の大きさ・同時に駐車可能な台数 P 9

(エ) 待機スペース P 9

(オ) その他 P 10

キ 楽屋について

(ア) タイプ・規模 P 10

(イ) 設備 P 10

(ウ) 配置 P 11

(エ) その他 P 11

ク 客席について

(ア) 客席数 P 12

(イ) 客席形状 P 13

(ウ) 視距離 P 13

(エ) 座席 P 13

(オ) 客席可変 P 14

(カ) その他 P 15

ケ ホワイエについて

(ア) 広さ	P 15
(イ) 配置	P 15
(ウ) 設備	P 16
(2) 創造支援エリアについて	
ア 練習室、リハーサル室について	
(ア) タイプ、規模、数量	P 17
(イ) 広さ	P 17
(ウ) 設備	P 18
(エ) 配置	P 19
(オ) その他	P 20
(3) オープンエリアについて	
ア オープンロビー（エントランス、トイレ等）について	
(ア) 配置	P 20
(イ) 広さ	P 20
(ウ) 機能	P 21
(エ) その他	P 21
2 管理エリアについて	
(1) 管理事務室等について	
ア 配置	P 22
イ 機能	P 22
3 施設全体の導線について	
(1) 来館者導線について	
ア オープンロビーから諸室への導線	P 24
イ その他	P 24
(2) メインホール出演者、関係者導線について	
ア 諸室への導線、諸室内の導線、諸室間の導線	P 24
4 その他	
(1) 参考になる施設	P 26
(2) 長崎市のホール施設の現状	P 27
(3) ホール整備に向けて整理が必要なこと(ソフト面)	P 28
(4) 施設整備の考え方(ハード面)	P 29

1 ホール諸室に求められる機能について

(1) メインホールについて

ア 舞台機能について

(ア) 舞台形式について

舞台形式としては、舞台技術者を中心にプロセニウム形式（※）を推薦する声が多かった。

舞台の機能としては、大迫（※）、小迫（※）が必要との意見が一番多かった。

※プロセニウム形式…舞台を一方向から見る形式で、舞台と観客がプロセニウム・アーチ（舞台前面の額縁状の枠）によってはっきり区分されている、現在では最も一般的な舞台形式。

※大迫・小迫…迫（せり）とは舞台の床の一部をくりぬき、そこに昇降装置を施した舞台機構で主に大道具などを上下させる「大迫り（おおぜり）」と役者などを上下させる「小迫り（こぜり）」がある。

【主な意見】

- 多様な用途に使えるプロセニウム形式がよい。
- オーケストラの公演の際に舞台後部に段をつけるひな段として、また、奈落からの機材の移動が可能な大迫が、演出用途としては日本舞踊・バレエなどのために小迫が必要。
- 花道（仮設でも可）（※）があるとよい。
- オーケストラピットは必要

※花道…舞台から客席を縦断するように同じ高さで張り出したもので、舞台の延長としてここでも演技が行われる

【舞台形式】有効回答数：11件

視点	団体活動分野	プロセニウム形式	その他	計
利用者の視点	音楽	1	1	2
	演劇		1	1
	舞踊	1		1
	伝統芸能			0
	興行主催者			0
舞台装置に関する専門的な視点	舞台技術者	7		7
計		9	2	11

【必要な舞台機能】有効回答数：14件（1団体による複数回答あり）

視点	団体活動分野	大・小迫舞台 (ひな壇含む)	オーケストラピ ット (前舞台)	廻り舞台	花道
利用者の視点	音楽				
	演劇		1		1
	舞踊	2		1	1
	伝統芸能				
	興行主催者				
舞台装置に関する専門的な視点	舞台技術者	6	1		1
計		8	2	1	3

(イ) 舞台の大きさ

間口、奥行き、高さを十分にとるべきとの意見が大勢を占めた。また、どの分野の団体からも間口と奥行きは同じ長さが必要で、その長さは10間（18m）以上とする意見が多かった。

【主な意見】

- ホールの使い勝手の良し悪しにつながるため、客席数に比例して舞台を小さくせず、間口、奥行き、高さ（フライタワー）について十分な広さを確保すること。
- 間口と奥行きは同じ長さ（正方形）を確保すること。
- 袖舞台は上手と下手を合わせて主舞台と同程度の広さが必要。
- 舞台後方に上手から下手、下手から上手への導線がとれる十分なスペースが必要。
- 舞台面の高さは客席から見やすいように、高すぎないように十分配慮する必要がある。

【間口・奥行きの長さ】有効回答数：15件

※1間は約1.8m

視点	団体活動分野	<14.5m (8間)	14.5m (8間) <18m (10間)	18m (10間) ≤	計
利用者の視点	音楽	0	0	1	1
	演劇	0	0	2	2
	舞踊	0	1	2	3
	伝統芸能	1	0	0	1
	興行主催者	0	0	3	3
舞台装置に関する専門的な視点	舞台技術者	0	3	2	5
計		1	4	10	15

(ウ) 吊物設備

バトンは電動が主流であるが、舞台技術者からは、演出用途で使われるバトンについては、細やかな表現に対応できる手引き（手動で昇降させるバトン）を推す声も多かった。

また、音楽の公演時に使用する反射板と、演劇などの舞台芸術に使うバトンが干渉しない作りが必要との意見を求める意見が多かった。

【主な意見】

- 十分なバトンの数を確保すること。バトン間隔は広い方がよい。
- 吊上げ式の音響反射板の場合は、一番いい位置にバトンがとれなくなる。反射板の天板が舞台後方から出てくるような仕組みも一つの方法。
- バトン自体に電源があると使い勝手がよい。
- 一定規模のホールの吊物機構は変速機能がある電動が主流となっている。
- 電動では表現できない細やかな演出に対応できることから手引き（手動）を推す意見も根強いが操作できる人が少ない。
- 幕を吊り上げた際に観客から見えないよう舞台上部に幕が完全に隠れるようにする。
- 反響板とどん帳の隙間に音が漏れない（ホール全体に音が響く箱ができる）構造がよい。

【吊物機構のしくみ】有効回答数：7件

視点	団体活動分野	手動	電動	併用	計
利用者の視点	音楽	0	0	0	0
	演劇	0	0	0	0
	舞踊	0	0	0	0
	伝統芸能	0	0	0	0
	興行主催者	0	2	5	7
舞台装置に関する専門的な視点	舞台技術者	0	2	5	7
計		0	2	5	7

(エ) その他必要な機能

文化団体を中心に、舞台と客席のエアコンの温度をそれぞれ別に設定できるようなつくりを求める意見が多かった。

【主な意見】

- 舞台と同じレベルに機材倉庫があると使いやすい。ブリックホールと同じように奈落に保管する場合も十分なスペースが必要。
- 舞台と客席のエアコンは別にする。
- スタンウェイ社のピアノを完備すること。クラシック用1台、その他用1台（スタンウェイでなくても可）の2台必要

イ 音響設備について

複数の舞台技術者から、特殊な機材は基本的に興行などの主催者側が持ち込む場合が多いため、基本的な設備をしっかり確保すべきという意見があった。

【主な意見】

- 生音の響きが保たれる設計が必要。
- 音響可変装置は必要。
- 防音仕様も他室に響かないように、しっかりと施す必要がある。また、外部への遮音も必要。
- 空調音がしない設備を導入すること。
- 基本的なものをしっかりそろえ、電源を使い勝手のいい場所に確保するなど、それらを使いやすい環境を整えておけばよい。

ウ 照明設備について

音響設備と同様に、複数の舞台技術者から、特殊な機材は基本的に興行などの主催者側が持ち込む場合が多いため、基本的な設備をしっかり確保すべきという意見があった。

【主な意見】

- 客席の照明を含めて施設全体を LED 化するなど、実際に建築する頃には技術が進んでいると思われるので、舞台照明への LED の導入についてはその時点で見極める方がよい。
- 基本的なものをしっかりそろえ、電源を使い勝手のいい場所に確保するなど、それらを使いやすい環境を整えておけばよい。

エ 映像設備について

音響設備、照明設備と同様に、複数の舞台技術者から、特殊な機材は基本的に興行などの主催者側が持ち込む場合が多いため、基本的な設備をしっかり確保すべきという意見があった。

【主な意見】

- 映写機等の機材を使う場合は興行主催者が持ってくるので、映写室としての空間（スクリーンだけでも可）があり、舞台袖に入力電源、スイッチャーがあればよい。
- 特に映像関係の機材は技術革新が早く、ホールに備えてもすぐに主流から遅れてしまう可能性がある。
- 入力電源は各所に配置し、パソコン等でも操作できるようにした方がよい。

オ その他

芸術アドバイザー及び舞台技術者から、施設が完成してから施設の不備を発見することがないよう、施設の完成前からスタッフを採用し、必要な設備について検討すべきとの意見があった。

【主な意見】

- 電源の容量をしっかりと取る。
- 特殊な機材は、基本的に興行主催者が持ち込む。ホールとしては、基本的なものをしっかりそろえ、電源を使い勝手のいい場所に確保するなど、使いやすい環境を整えておけばよい。
- 施設完成前に舞台スタッフを決めて必要なものをそろえた方がよい。

カ 搬入口について

（ア）位置

舞台までの距離といった施設内の位置に加え、資機材の積み下ろしの際に騒音等による迷惑が掛からないよう、周辺住居との位置関係にも配慮すべきとの意見があった。

【主な意見】

- 舞台の横に搬入口があるブリックホール大ホールの位置関係は便利。
- 夜間の搬出作業となる場合があるため、近隣の民家等の迷惑にならないよう、位置等を配慮する必要がある。

(イ) 導線

舞台まで段差がなく搬入出できる構造を求める声が多かった。

【主な意見】

- 搬入口から舞台まで段差なくフラットに搬入出できる環境がよい。
- トラックの乗り入れが容易な引き込み導線の確保が必要。
- 来館者駐車場と搬入口の導線は別の方がいい。
- 搬入口への進入路を無理なく円滑に入れるように確保する。

(ウ) 駐車可能な車両の大きさ・同時に駐車可能な台数

11 トン車 2 台の駐車が可能であることが望ましいとの意見が多かった。

【主な意見】

- 11 トン車 2 台の駐車が可能なこと。
- 文化団体の利用では 2 トン×3 台程度が多い傾向。
- 複数台が同時に積み下ろしできるのが望ましい。1 台ずつの場合は、作業に時間を要する。

(エ) 待機スペース

搬入後の一時退避スペースや、公演中に敷地内に駐車しておけるスペースを求める意見が多かった。

【主な意見】

- 敷地内に搬入車両が待機できるスペースが欲しい。

(オ) その他

屋根については、搬入出時の作業の利便性から、ほとんどの団体が必要と答えた。また、メインホールとそれ以外の用途の搬入口が一緒であると、搬入出時に時間調整が必要になるなど、使い勝手が悪いとの意見も聞かれた。

【主な意見】

- 屋根が必要。
- 共用（ホールと別の用途の施設）は不可。
- プラットフォームと11トン車の荷台の高さをフラットに。

キ 楽屋について

(ア) タイプ・規模

小さい部屋をいくつも設けるより、大きな部屋を必要に応じて細かく仕切ることができる方が使いやすいとの意見が多数あった。

【主な意見】

- パーテーションで仕切ったり、つなげたりできる作りが使いやすい。
- 個室が必要（講師・客演用）。
- 和室（無理ならフロアシートで）・洋室・スタッフ控室が必要。
- 音が出せる楽屋。

(イ) 設備

姿見やハンガーラック、冷蔵庫といった一般的なもののほか、インターネット回線や分煙室を求める意見もあった。

【主な意見】

- 楽屋の内外及び楽屋と舞台袖の間にインターホンがあると便利。
- 鍵付の貴重品ロッカー。
- インターネットLANまたは無線LAN、電源。
- 冷蔵庫、製氷機、洗濯機、冷暖房（部屋ごとに）、加湿器、電気コンロ、電子レンジ、給湯器。
- 洗面所、シャワー室（共用で可）、洋式トイレ。
- 姿見（全身が映る鏡）、ハンガーラック、机、椅子、ゴミ箱
- 分煙室（楽屋外でも可）。

（ウ）配置

舞台と同じフロアにあり、舞台に隣接した配置を求める意見が多かった。また、楽屋エリアは、一般の来館者の導線と隔離された専用の出入り口を備え、一般の来館者と顔を合わせることも舞台への行き来ができるよう配慮された配置を求める声が非常に多かった。

【主な意見】

- フラットに移動できる舞台と同じフロアで、舞台から近い位置に配置する必要がある。
- 車が横づけできる位置（一般の車とは導線が重ならないように）。
- 一般の来館者導線とは離れた舞台裏で舞台とつながっている場所。
- 主催者控室と近い場所。
- 楽屋が二つの階に分かれる場合は、どちらかは舞台と同じフロアに配置し、導線をわかりやすく。

（エ）その他

文化団体から、安い料金で使用できるしくみを求める声が複数あった。

【主な意見】

- 部屋ごとに別料金（使った分だけ支払う）。
- 掲示できるボードや壁。
- 廊下は広く（荷物を置いても消防法に抵触しない広さ）。
- 飲食可にしてもらいたい。
- オペラ公演の場合、楽屋が多く必要（市内の施設はどこも足りない）。

- 楽屋が足りない場合、練習室・リハ室を楽屋代わりに使用できるとよい。
- 過剰な設備は備えず、使いやすい料金設定に。

ク 客席について

(ア) 客席数

音楽や演劇関係の団体は、500～1,000席の小規模なホールや1,000～1,200席の中規模のホールを希望する意見、また舞踊団体からは1,200席以上を求める意見があった。興行主催者からは、採算性の観点を踏まえ1,000～1,200席程度のホールを希望する声が多かった。全体としては、1,000～1,200席程度が一番多かった。

【主な意見】

- 500席から600席程度
- 800席程度（採算性を考えると）
- 1,000席程度（音響がいいホールの席数）
- 1,000席から1,200席は使い勝手がよい。稼働率が高くなると思われる。
- 1,200席（市民会館より多い席数）
- 1,300席程度（吹奏楽ではこの規模が望ましい）
- 1,500席

【必要な客席数】 有効回答数：19件

単位：席

視点	団体活動分野	500～1,000 (小)	1,000～ 1,200 (中)	1,200以上 (大)	計
利用者の視点	音楽	2	2	1	5
	演劇	2	0	0	2
	舞踊	0	0	2	2
	伝統芸能	0	1	0	1
	興行主催者	0	4	2	6
舞台装置に関する専門的な視点	舞台技術者	1	2	0	3
計		5	9	5	19

(イ) 客席形状

さまざまな意見がある中、どの席からも舞台が見える形状を求める意見が多かった。

【主な意見】

- 平土間のホールが使い勝手がいい。
- どの席からでも舞台がすべて見える形状。
- 縦長の客席は音が伝わる。見切れが少ない。
- 横広がり客席は見やすい。
- 客席後部に向かって膨らんだ扇型が望ましい。
- 客席の階段は極力少なく。ゆるやかなスロープ形状。
- 客席間のスペースを広く。互い違いに。
- 客席通路を広く。後部通路を広くして立見スペースを確保。
- 外部から閉じた真っ暗になる空間。
- 舞台横にも客席がある形状。
- 車イス席（子ども用含む）からでもしっかり見える形状。フラットに入場できる場所に設置。
- バルコニー席を設置（3階以上は音が届かず見にくい）。
- バルコニー席は壁が低くて危険。

(ウ) 視距離

視距離は短い方が良いとする意見が多かった。

【主な意見】

- 視距離を短くする作りとして多層バルコニー席があるが、他館の状況を研究する必要がある。
- 演劇などでの利用も想定すると客席最後部から舞台までの距離（視距離）は近い方がよい。
- 一体感があり見やすい設計。
- 公会堂・市民会館程度。
- クラシックは35m、演劇は20～25m程度。

(エ) 座席

長時間の公演に耐えられるしっかりとした座席を求める意見が多かった。

【主な意見】

- 素材がよくしっかりしていて、長時間座っても耐えられるもの。
- 2階席は手すりが邪魔にならないよう配慮が必要。
- ロールバック（移動式観覧席）の椅子はガタガタして落ち着かない。
- 主張しすぎない内装や座席の色
- 車いすスペース、親子室の設置。
- 招待席の表示をスムーズにできるカバー等の完備。
- 子ども用座布団の貸し出し。

(オ) 客席可変

オーケストラピットは必要であるという意見が多かった。

【主な意見】

- 多様な演目に対応するにあたり、オーケストラピットは非常に使い勝手がある。特に前舞台としての利用ニーズが高い。また、仮花道も設置できるようにしておくべき。
- オーケストラピットを使う大型公演はブリックホール大ホールを使うのではないか。
- 基本は高土間で、平土間空間を作れるもの。
- 移動（格納）式観覧席、舞台床上下機能は不要

【オーケストラピットの要否】有効回答数：12件

視点	団体活動分野	必要	不要	どちらとも いえない	計
利用者の視点	音楽	1			1
	演劇				0
	舞踊	1			1
	伝統芸能	1			1
	興行主催者	1		1	2
舞台装置に関する専門的な視点	舞台技術者	4	2	1	7
計		8	2	2	12

(カ) その他

文化団体から、小規模な公演の際は1階席のみの利用料金で利用できるようにしてほしいとの意見が複数あった。また、1階席のみの利用の場合、空席感を出させないために2階席を隠すなどの工夫がほしいという意見もあった。

【主な意見】

- 客席入口の扉が重すぎると高齢者・子どもは大変。
- 客席で飲酒できるとよい。
- 1階席のみを利用できるように（1階席と2階席は別料金）して、2階席を利用しない場合は、隠せるしくみ。
- 客席内に操作卓を置ける場所を確保。

ケ ホワイエについて

(ア) 広さ

どの団体からもエントランス周りのオープンロビーとホール内のホワイエとのバランスを考慮し、一時的に多人数が出入りすることに配慮した入口（数と幅員）を設け、来館者の安全な導線を確保できるよう十分な広さを確保する必要があるという意見が多かった。

【主な意見】

- 来館者の安全な導線を確保できるよう十分な広さを確保する必要がある。
- 仮設の物販で行列ができて来館者が安全に通行できる広さ。
- 市民会館と同程度。
- ロビーコンサートができるスペースがほしい。

(イ) 配置

エントランスから段差がなく、分かりやすい導線を確保することを求める意見が多かった。

【主な意見】

- 高低差がなくエントランスからホールのホワイエに入れるのが望ましい。
- 利便性はもとより、緊急時の安全性も考慮し、わかりやすい導線を確保すること。
- ホールと別の用途の施設（大ホールと小ホールなど）でホワイエを共有するのは使いにくい。
- オープンスペースのエントランスと観客しか入らないホワイエの配分をよく考えて。

（ウ）設備（配置含む）

トイレに関する意見が多かった。洋式・オストメイト対応トイレの設置などの設備に関する意見や、バリアフリーでなるべく客席から近い場所へ配置するなど導線・配置に関する意見、また、公演の休憩時間中に多くの方が使用しても時間内に席に戻れるように、十分な数量の設置を求める意見があった。特に女性用トイレの数量は男性以上に必要であるとの声が多かった。

【主な意見】

- トイレをバリアフリーでなるべく客席から近い分かりやすい場所（サイン誘導含む）に必要な数量配置する必要がある。
- トイレはフロアごとに必要。客席位置で偏りが無い位置に。
- 女性用トイレは数を十分に（男性用を女性用に切り替える等の運用も必要）。
- エレベーターの適切な位置と誘導。
- エスカレーター・エレベーター。
- ホール内の音が聴こえるスピーカー
- 調光機能などで、劇場としての雰囲気演出できる設備
- クローク（バッグ等を置ける場所）、物販スペース、もぎりは客導線とかぶらないよう隅によせて。
- バーカウンターは仮設でよい。
- 当日券販売専用スペース
- もぎり場所は、階段に並ばなくてよい場所（ホワイエ内など）に設置。
- 運営スタッフルーム（20人部屋）
- コインロッカー（大荷物用も）
- 授乳室・おむつ替えベッド
- パウダールーム
- 軽食販売スペース（公演前・休憩中に飲み物の提供など）
- ピアノ（1台）

- 2階ホワイエの主催者控室は使用頻度が低い。

(2) 創造支援エリアについて

ア 練習室、リハーサル室について

(ア) タイプ、規模、数量

小規模な公演が開催できる設備を備えて用途を広げるなど、使い勝手のよい施設にするための工夫に関する意見が聞かれた。

【主な意見】

【リハーサル室】

- 小劇場型の演劇公演などが実施可能な吊物機構等を備えた施設を整備することにより、創造的な活動の場としての機能が充実し、新たなニーズも生まれるのではないかと。また、潜在的なニーズも高いと思われる。
- 大ホールと連動してリハーサル用に使用する頻度はとても低く、単独利用（バレエ・フラダンス）が多い。リハーサル専用としての必要性の検証が必要。
- 控室としても使えるように。
- 2つあると効率がよくなり利用率が高くなる。出演者が多い時間帯を回すのにも便利。

【練習室】

- パートに分かれて音が出せる部屋。
- 若いバンド（音楽グループ）が使いそうな部屋（低料金・雰囲気）

【共通】

- ブリックホール程度の数（リハ室1・練習室3）があればよい。
- やや長方形の形状。
- M I C Eや他の文化施設で使える部屋があれば気合いを入れてつくる必要があるか整理が必要。

(イ) 広さ

リハーサル室については、舞台の間口・奥行き・高さと同じ広さが良いとの意見が多かった。

【主な意見】

【リハーサル室】

- 50名程度（オーケストラ全体）が演奏できる広さ
- 主舞台の間口・奥行き・高さと同じ広さ。
- 天井高5m程度

【練習室】

- 定員60人：1部屋、定員40人：2部屋、定員30人：4部屋、定員20人：4部屋

【その他】

- 控室を大きめに

（ウ）設備

演劇分野の団体から、公演の開催が可能な照明、美術バトンなどを求める声があった。また、舞台技術者からは電源、吊物など基本となる設備を備えておけば工夫して使うことができるとの意見があった。

【主な意見】

【リハーサル室】

- 大ホールを小さくしたような照明、美術バトン等が必要。また、外光が公演スペースに入り込まないように懐をつくる必要がある。
- 吊物機構についてはメルカつきまちホール（格子状の照明等を吊るせる機構）の使い勝手はよい。
- 竣工後に工事の必要がないように、電源、吊物など基本となる設備を備えておけばよい。基本的なものがあれば利用者が工夫して使うことができる。
- 舞台が60cm程度上がると観客は見やすい。
- 音響設備と天吊りのプロジェクターを備えていると会議でも利用しやすい。
- 録音機材は使用頻度が低い。
- バルコニーがあると客席としても利用できる。

【練習室】

- 料金が低い簡易な部屋と料金の高い本格的な部屋を別に確保。
- 楽屋代わりに使えるよう鏡、ハンガーラック等の貸し出し。
- ピアノ、ドラムセットなどの楽器の完備。

【共通】

- ホールっぽい感じが出せる照明。
- 防音性と密閉性を確保すること。
- 踊り用のバーを設置（可動式で貸し出しでも可）。
- 床は板張りがよい。床板の下には緩衝材を。
- 床材にリノリウムを使っている施設もある。
- 壁面鏡。
- 圧迫感がないように窓を確保（子どもの利用のため）。
- スピーカーの位置が重要。

【その他】

- 着替え部屋（控室）。
- 楽器保管庫（前日に搬入して置いておける場所）。
- 交流スペース（団体間の化学反応を期待）。
- 専用の搬入口を確保。
- シャワー室の利用頻度は低い。

（エ）配置

リハーサル室・練習室は、リハーサル会場や楽屋などとして、メインホールと一体的に利用されることも想定し、舞台近くにあり、段差なく移動できる導線を確保するのが望ましいとの意見が多かった。

【主な意見】

【リハーサル室】

- 舞台裏など楽屋の近くにリハーサル室を配置すると便利。
- 奈落に舞台と同じリハーサル室を配置してはどうか。

【共通】

- バックヤードでメインホールとつながっているような配置にすることが望ましい。
- ホールと異なる階にあってもバックヤードで、エレベーターで上手につながっていれば支障はない。
- 舞台へはフラットで短く（出演者にも車いすの人がいる）
- 単独で貸し出す際の導線もしっかり考える必要がある。

- ホールの来場者（客）と練習室利用者の導線が重ならないように配慮する。

（オ）その他

文化団体から、子どもから社会人まで様々な利用者が使いやすい時間設定に関する意見が多かった。

【主な意見】

- 子どもが利用しやすい貸出時間区分（16時～19時）の設定を。
- 青少年団体には減免を。
- 使用時間を23時か24時ごろまで伸ばしても社会人のニーズはある。
- 大ホール公演時は、練習室等を使用するため一般の練習との調整が必要。

（3）オープンエリアについて

ア オープンロビー（エントランス、トイレ等）について

（ア）配置

エントランスから各施設へ、迷うことなく行ける配置を求める意見が多かった。

【主な意見】

- エントランスに入ったら一目でわかるような、わかりやすい諸室の配置が必要。
- 導線を床の色で表示するなどの工夫が必要。
- エントランスからフラットにホール内に入れる作りが望ましい。もぎり前に階段に並ぶのは危険。
- フリーに入れるエリアと公演の観客しか入れないエリアを区別。

（イ）広さ

メインホールで大規模な公演があった場合に、混乱なく安全に入退場ができ、人が溜まることのできる広さを求める意見が多かった。

【主な意見】

- 大ホールでの来館者の入退場には緩衝地帯として館の内外に一定の広さが必要。

- ブリックホールのような大きいものは不要。
- 公演の開場待ち時間などに着席して待機できるような場所が必要。

(ウ) 機能

ホワイエと同様にトイレに関する要望が一番多かった。

【主な意見】

- 十分なトイレの数をわかりやすい場所に確保する（特に女性用）。
- 車イス用トイレ。
- 市民団体の各種掲示（演奏会案内、団体募集等）を掲示、陳列できるスペース
- インフォメーション機能が必要。
- 売店・カフェの設置。飲食できる前提の部屋の確保。
- 酒が飲めるスペース。
- W i f i（無線LAN）。
- バリアフリーなど、高齢者に配慮した設計が必要。

(エ) その他

文化団体から、公演がない日にも、人が集まる機能を求める意見があった。

【主な意見】

- イベントをしていない日でも文化団体同士または一般の市民間の交流が生まれる施設に。
- 許可が取れば主催者が飲食を提供できる。
- 出演者へのケータリングや食べる場所の確保。

2 管理エリアについて

(1) 管理事務室等について

ア 配置

管理事務室等は1階にあった方がよいという意見が多いが、事務室へ頻繁に行くわけではないので、他の機能の配置を優先すべきとの意見もあった。

【主な意見】

- 1階エントランスに面しているのが望ましい。
- ホール・楽屋と近い方がよい。
- オープンスペースの一角を仕切る形でもいい。
- 頻繁に行くわけではないので、入口から遠くても問題ない。
- 事務所と防災センターは隣接しているのが理想。

【管理事務所の場所】有効回答：15件

視点	団体活動分野	1階	その他	どこでもいい	計
利用者の視点	音楽				0
	演劇	1			1
	舞踊	3			3
	伝統芸能	1			1
	興行主催者	1		3	4
舞台装置に関する専門的な視点	舞台技術者	5		1	6
計		11	0	4	15

イ 機能

チケット販売ができるカウンターの設置を求める意見が複数あった。

【主な意見】

- 事務所と打ち合わせ場所が1部屋あればよい。

- 舞台のスタッフルームは必要
- 市主催事業のチケット販売ができるカウンターの設置。
- 長机程度の受付
- 事務室周りにホールスタッフが使える書庫・保管庫が必要。

3 施設全体の導線について

(1) 来館者導線について

ア オープンロビーから諸室への導線

メインホールゾーン、練習室ゾーンなど、エリアごとに導線が区分されていると分かりやすいという意見や、公演の出演者と一般の来館者の導線は別の方がよいという意見が多かった。

【主な意見】

- 舞台への導線はわかりやすくフラットが理想。複合施設の場合は導線を別に。
- ホール、練習室など、エリアごとに導線が分かれている方がわかりやすい。
- トイレの場所がわかりやすくなる工夫を。
- 演者と一般の来館者の導線は別に。
- 車いす入場者の導線も配慮した計画（バリアフリー対応）を希望。階段は極力少なく。

イ その他

エレベーター、エスカレータは出入口から見える向きにあった方が分かりやすいなど、配置に関する意見が多かった。

【主な意見】

- エスカレータの上のたまり場所は一定の広さがないと危険。
- エレベーター、エスカレータは出入口から見える向きにあった方が分かりやすい。
- 誘導サインはデザインに凝りすぎず、機能性を重視して文字は大きく表示する方がよい。

(2) メインホール出演者、関係者導線について

ア 諸室への導線、諸室内の導線、諸室間の導線

公演の出演者と一般の来館者の導線は別の方がよいという意見が多かった。

【主な意見】

- ブリックホールのように出演者と来館者の導線が別であれば問題ない。

- 楽器保管庫から、舞台、練習室に行くための導線をよく考えて。
- 車いす出演者の導線も配慮した計画（バリアフリー対応）を希望。
- 楽屋の出入口は、一般の来館者と導線がかぶらないように。
- リハーサル室がメインホールと別の階にあっても、エレベーターで導線を確保すること。

4 その他

(1) 参考になる施設

どの客席からもよく見える、ゆっくりとした傾斜になっていて安全な施設、減免や会員へのチケットの優先販売といったソフト面で見習うべき施設などについて意見があった。

【主な意見】

- 国立劇場
 - ・大劇場は客席が横に広がっていて一番後ろの席からでもよく見える。
 - ・三面舞台が理想的なつくり
- 水戸芸術館
 - ・キャパ 680 人の馬蹄形のホールで室内楽に適している。
- 福岡市健康づくりサポートセンター
 - ・規模が手頃で、音楽に最適の特性を持った靴箱型のホール。
- 宮崎県立芸術劇場、熊本県立劇場
 - ・大ホール・中ホール・小劇場がありバランスがよい。
- 北九州芸術劇場
 - ・バルコニー席としての客席のバランスがよい。
- 時津カナリーホール
 - ・音楽用に作られており音響がよく舞台と客席の関係がよい。
 - ・スロープで下に移動するので危なくない。スロープに並ぶこともある。
 - ・手引きの美術バトンがある。
 - ・児童館が併設され、ふれあいの空間になる。
- シーハットおおむら
 - ・さくらホールには舞台レベルに機材庫、ピアノ庫がある。
- 武雄市文化会館、福岡市民会館
 - ・座席がゆっくりと傾斜があって（スロープ状で）いい。
- アルカス S A S E B O
 - ・小劇場として使えるイベントホールはロールバック＋床上下する。
 - ・中ホールは県内で希少な音楽専用ホール。規模も手頃。
 - ・当日券販売ブースは使い勝手がよい。

- ・車いす席が一番後ろにあるので使いやすい。使わない場合は座席になる。
- ・共催事業は使用料無料。友の会には優先販売実施。
- ・大ホールは1階席のみ使えて便利
- ・主催者用ゴミを1袋500円で清掃会社が処理
- ・音響反射板の格納位置が工夫されており、いい位置のバトンが使える。
- 上田市交流文化芸術センター
 - ・リハ室はコンパネで、思い切ったコスト削減をしている。
- 佐賀市文化会館
 - ・搬入口が用途ごとにすべて別にある。
 - ・搬入車の待機場所が十分
- 久留米シティプラザ
 - ・カードキーで各フロアに入るようになっている。
- 鹿児島島の施設
 - ・楽屋外廊下に分電盤があり、平行を使って追加できる。
- てだこホール（浦添市）
 - ・青少年に対しては減免制度があり稼働率が高い。

(2) 長崎市のホール施設の現状

各ホール施設のいい点、悪い点についてさまざまな意見が聞かれた。

【主な意見】

- ブリックホール
 - ・搬入口は位置、建物内の配置ともに理想的。
 - ・楽屋の位置、配置、導線、部屋数がいい。
 - ・国際会議場はM I C Eができると利用者が減るのでは。
 - ・大ホールは視距離が遠い。
 - ・2階ホワイエ付近にトイレがないのが不便。
 - ・2階ホワイエの丸カウンターは視認性が低く導線とかぶるため使いにくい。
 - ・大ホール1階入り口は奥まっついてわかりづらい。
 - ・大ホールの2階席は急で危ない。

- 市民会館
 - ・搬入口が狭すぎて使えない。
 - ・上階が体育館になっていて使えない。
- チトセピアホール
 - ・1団体10人くらいの市民演劇祭は使いやすそう。
 - ・他用途と共用になっており、搬入口が使いにくい。
- メルカつきまちホール
 - ・舞台天井に格子上のバーがあり、多様な使い方ができる。
 - ・他用途と共用になっており、搬入口が使いにくい。
- 共通
 - ・公会堂の閉館後、1,000人以上のホールがブリックと市民会館だけとなり土日の予約が困難。佐世保や諫早に流れている。
 - ・リハ室などが開館時間を超えて利用できない。
 - ・多目的ホールは音楽用なのか演劇用なのか中途半端で使えない施設になっている。

(3) ホール整備に向けて整理が必要なこと（ソフト面）

コンセプトをはっきりさせ、早い時期から専門家や舞台技術者、文化団体等の意見を取り入れながら整備を行うことの重要性を訴える意見が多数あった。

【主な意見】

【コンセプト・方向性】

- ホールをつくる上での基本的なコンセプトをはっきりさせる（市内（県内）にある施設の役割を明確に分ける）。
- 専門家（プロ）と意見交換をするなど、計画段階からさまざまな意見を聞きながら進める。設計者に物が言えるコーディネーターがいるとよい。
- 無駄なく、使い勝手の良い施設をつくるためには、今後も舞台技術者の意見をしっかりと聞いて進めて欲しい。
- 専用ホールの方ができることが増える。音楽と舞台芸術の場は分けた方がよい（例：リハ室で小ホールを兼ねるなど音楽と演劇の小規模なホールをそれぞれ作る）。
- 国際会議場の活用方法を考える。

- 公演がないときでも人が集まり交流が生まれる機能（例：子育て支援センターなど）の検討
- ホール付の団体（劇団・楽団等）を置き、使いながら市民に発表（還元）するしくみ。
- すべての分野から 100 点満点は難しいので優先順位をつける。
- 有識者や舞台関係者の声を基にプランを作成したら、変えないことが基本。

【運用面】

- 気軽に練習に来ることができるように駐車料金を安く。
- 出演者には駐車券（無料・割引）の配布を。
- 閉館時間をなるべく遅く（最低 22 時。例：開館時間を遅らせて閉館を長く）。
- 利用時間をフレキシブルに使えるしくみ（例：ホールは 22 時でもリハ室は 23 時まで）
- 利用時間区分や料金体系など文化団体の意見を聞いてほしい。
- 1 階席料金の設定（必要な部分だけを使う）
- チケット販売、会員優遇制度、共催事業の無料化、定例催事の予約枠等の検討（市民発表の場と興行のバランス）。
- ゴミの回収サービス
- 申請書類の簡素化
- 支払いは公演後にできるしくみ
- 長崎の音楽界をリードするような催しの招致（例：原語でオペラ）

（４）施設整備の考え方（ハード面）

過剰な設備は不要で、基本的な設備を備えたホールを求める意見があった。

【主な意見】

【ホールなど主要部分の機能】

- 舞台の広さやフライタワー（舞台上部の吊物機構格納部分）の高さなど、基本的なところがしっかり作られていれば、ホールの使い勝手は高まる（過剰な施設は不要）。
- ホールを整備する際の優先度は①舞台②客席③その他。その優先順位を意識して進める。
- 長崎らしい魅力的なデザイン
- 子どもや若い世代が気軽に入れて文化に浸れる雰囲気

【その他】

- 舞台、客席、ロビーなど細やかな利用区分ができる空調設備

- ホールはエアハンドリングユニットが必要。リハ室・練習室は効率がよく小回りがきくパッケージエアコンがよい。
- 冷暖房吹出口は、効率を考えると暖房は下から冷房は上からだ理想的。
- 外観などに費用をかけず、施設使用料や付属設備使用料を安く設定する工夫（例：照明を1基ごとでなくサス（バトン）単位で貸し出すなど）
- 多目的トイレは、エントランス・ホール内に十分な配置が必要。
- 十分な主催者用・来館者用駐車場の確保。
- 搬入車両の停め置きスペース
- 自走式の駐車場
- 大型バスの駐車場または乗降場
- 常設のチケット販売カウンター
- 喫茶コーナー
- 非常時の拠点施設
- 非常時に避難しやすい導線